

小櫃川河口鳥類目録 (1974~1995年)

箕輪義隆¹・桑原和之²・田村 満³

キーワード：シギ・チドリ類、鳥類相、塩性湿地、干潟、東京湾

はじめに

小櫃川河口 (35° 24' N, 140° 55' E) は房総半島中央部の東京湾岸に位置している (図1)。木更津市から袖ヶ浦市にかけて広がる干潟は盤洲干潟と呼ばれており、小櫃川河口の三角州前面には広い干潟が円弧状に広がっている (貝塚1992)。大潮の干潮時には、河口域の沖合い約2 kmにわたって干潟が広がる。ただし、河口域の流路は近世に改変された経緯がある (吉村1982, 1983)。前浜干潟の底質は、習志野市の谷津干潟や東京都・神奈川県境の多摩川河口にみられる泥質の部分は少なく、主に砂質である。砂質の干潟にはコメツキガニ *Scopimera globosa* やアサリ *Ruditapes philippinarum*、ゴカイ *Neantes japonica*、モロテゴカイ *Ceratonereis erythraeensis* 等多くの底生生物が生息している (大嶋・風呂田1980)。

三角州には泥質の塩性湿地が広がり、感潮クリークが発達している。三角州の大部分はヨシ *Phragmites communis* (Cav.) Trin. ex Steud. やアイアシ *Phacelurus latifolius* (Steud.) Ohwi の群落に覆われており、チガヤ *Imperata cylindrica* (L.) P. Beauv. var. *koenigii* (Retz.) Dur. et Schinz 2. やカモノハシ *Ischemum aristatum* L. var. *glaucum* (Honda) T. Koyama の群落も部分的にみられる (岩瀬・桑原1989)。中州の低地などではシオクグ *Carex scabrifolia* Steud. やハママツナ *Suaeda maritima* (L.) Dumort. の群落もみられる (延原ほか1980)。感潮クリークにみられる泥質の干潟にはヤマトオサガニ *Macrophthalmus japonicus* やチゴガニ *Ilyoplax pusilla*、ヨシ原にはアシハラガニ *Helice tridens tridens* やクロベンケイガニ *Holometopus dehaani* 等の底生生物が生息している。また、当地はキイロホソゴミムシ *Drypta fulveola* Bates の唯一の生息地であり、河口域の中でも限られたヨシ原の中に生息している (宮野・山口1994)。三角州の北側には浸透実験池があり、汽水性の生物が観察される。河口右岸にはクロマツ *Pinus thunbergii* の植林 (以下、松林とする) がみられ、秋の渡りの時期には旅鳥の休息地や中継地となる。堤内の畔戸付近は主に水田が広がっており、集落には人家を囲む屋敷林がみられる。

図1では1990年以前の河口の状況を示しているが、1990年からは左岸の久津間海岸、1992年には畔戸の堤内の埋め立てが行われた。また、河口に近い中島付近では東京湾横断

-
1. 日本鳥類保護連盟：〒162 東京都新宿区新宿2-5-5新宿土地建物第11ビル5 F
 2. 千葉県立中央博物館：〒260 千葉県千葉市中央区青葉町955-2
 3. 〒229-02 千葉県袖ヶ浦市福王台1-9-11

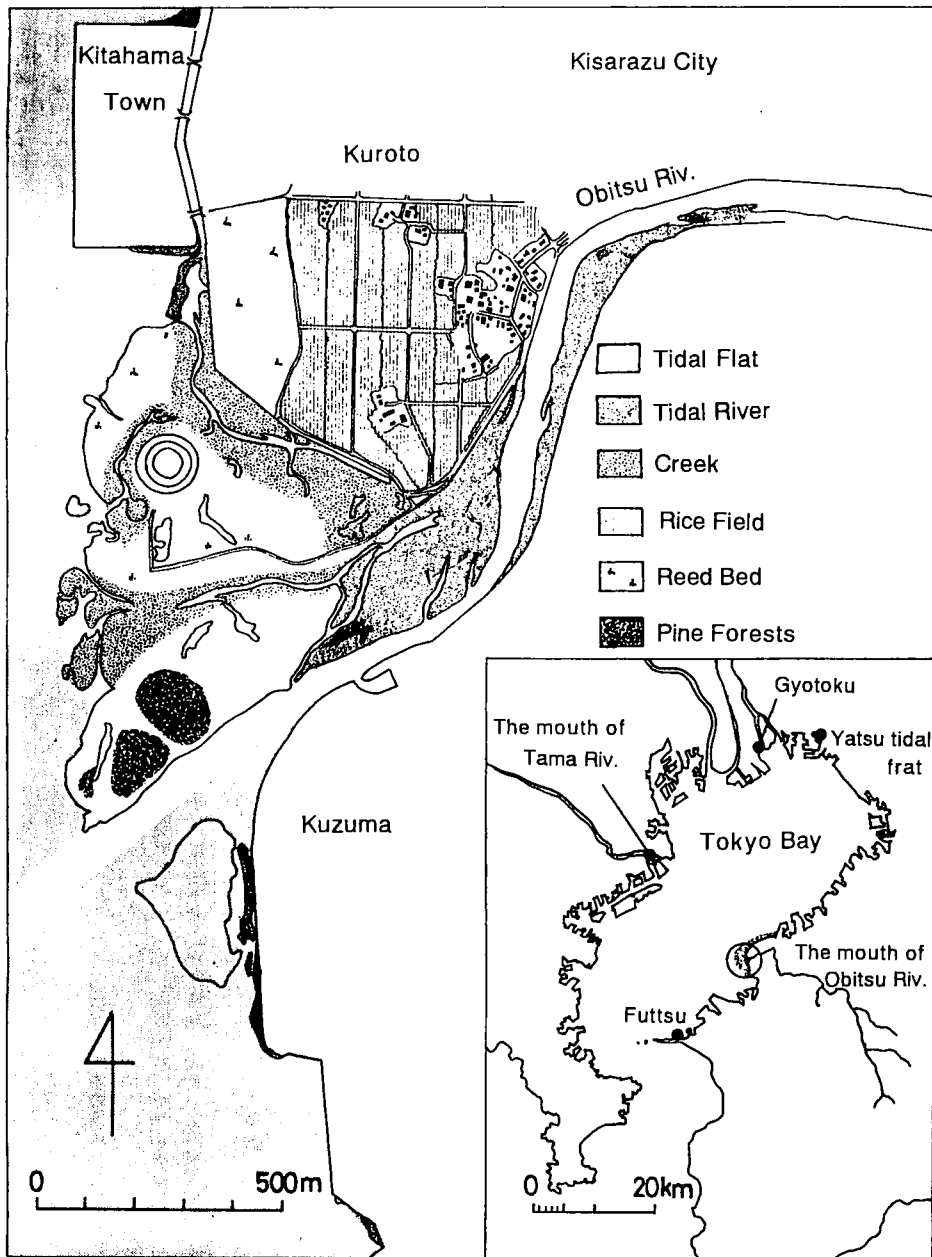


图1 小櫃川河口域

道路の建設が進行中である。多様な環境をもった小櫃川河口域は鳥類相が豊かであるが、隣接した水田などの湿地帯も鳥類の重要な生息環境である。1991年以降、干潟に接した水田地帯の水鳥の個体数は激減しており、これは工事の進行に伴う環境の変化による鳥類相の変化である。

小櫃川河口での鳥類研究史

小櫃川河口の鳥類に関する研究は1970年代から始められた。1974年からは、山階鳥類研究所標識研究室を中心としたスタッフが、主にシギ・チドリ類のバンディングによる渡り鳥の調査を現在まで継続して行っている。この他にも、鳥類相に関する報告（千葉の自然を守る会1973、桑原・山本1986）、シギ・チドリ類の採食行動や採食場所に関する報告（百瀬1974、1975）、シロチドリの採食行動に関する報告（尾崎1975、吉安1976、山本1984）、サギ類の採食行動に関する報告（東條1987）等の研究が挙げられる。干潟や河口沖合で収集された標本は山階鳥類研究所や千葉県立中央博物館、島根県立三瓶自然館などに収蔵されている（島根県立博物館1978）。水鳥類の個体数については著者らがカウント調査を行っているが、百瀬・桑原（1988）以降、鳥類の生息種のリストは作成されていない。

鳥類相

小櫃川河口では1974年から1986年までに191種が記録されている（百瀬・桑原1988）。

1987年以降、1995年までの9年間に23種が追加され、合計214種が確認されている。千葉県内では332種が記録されている（千葉県1975）。市川市行徳鳥獣保護区では1976年から1985年にかけて209種が記録されている（蓮尾1986）。習志野市谷津干潟周辺においては1975年から1983年にかけて170種がみられ、その後1993年までに12種が追加され、182種が記録されている（石川・桑原1984、石川1993）。多摩川河口では1995年12月までに177種が記録されている。これは箕輪ほか（1991）に杉坂学氏の確認した種を追加したもので、追加種はクロサギ、ツミ、ノスリ、サンバ、クイナ、ケリ、メリケンキアシシギ、オオジシギ、エリグロアジサシ、アオバト、ツツドリ、アマツバメ、ショウドウツバメ、ノビタキ、アカハラ、エゾムシクイ、オオルリ、コサメビタキ、ツリスガラ、ヤマガラ、クロジ、カケスの22種である（杉坂私信）。木更津一川崎間を航行するフェリー航路では46種が記録されている（箕輪ほか1995）。なお表1では比較のために小櫃川と多摩川河口、木更津一川崎間の東京湾海上の鳥類リストを示した。このように、鳥類の種数の多い小櫃川河口は、東京湾岸でも鳥類相が豊富な地域と言える。

小櫃川河口の鳥類相の特徴は、干潟で観察される水鳥類やヨシ原等で生活する草原性の陸鳥類が多いことである。記録された214種のうち水鳥類は118種で過半数を占め、その中でチドリ目が最も多く65種、次いでガンカモ目が22種、コウノトリ目が14種確認されている。その他の目では確認された種数は少なく、カイツブリ目とツル目が5種、ミズナギドリ目が4種、ペリカン目が3種しか確認されていない。水鳥類の個体数は、シギ・チドリ類、アジサシ・カモメ類、ガンカモ類が多い。

シギ類ではハマシギやキアシシギの個体数が多く、この2種の個体数は東京湾内で最も多い。ハマシギは数千羽が越冬する（干潟を守る会1973）が、キアシシギの1000羽を越す群れは1980年以降みられなくなった。チドリ類ではシロチドリが最も多く、1000羽を越え

る群れも1970年代には稀でなかったが、1980年以降減少し、キアシシギと同様1000羽を越える群れは稀になった。メダイチドリも春と秋の渡りの時期に200羽以上がみられる。但し、谷津干潟に多いダイゼンや、印旛沼の水田地帯に多いムナグロ等大型のチドリ類の個体数は少ない。また、7～8月にはスナガニ類を採食するオオメダイチドリも例年のように記録されている。このほか、極く稀にコバシチドリの記録もある(成田1993)。東京湾岸の干潟でも、小櫃川河口に比べ面積の狭い市原市養老川河口などではシギ・チドリ類の個体数・種数は少ない(嶋田・桑原1994)。富津岬の元洲では小櫃川河口干潟と同じ砂質の干潟が形成されているが、その干潟部分の干出時間は短いため、鳥類の種数・個体数とも少ない(桑原ほか1993)。これらの事からも、小櫃川河口はシギ・チドリの宝庫と言える。

小櫃川河口域の中でも、環境によりシギ・チドリ類の分布は異なる(桑原・田村1991)。1981年から1989年における83日間の調査では、32種のシギ・チドリ類が確認されている。このうち19種が干潟を、20種が水田を、10種が川筋を、8種が埋立地を利用して採食場所としてシロチドリ、メダイチドリ、ハマシギ、キアシシギは干潟を、ムナグロ、コチドリ、アオアシシギ、タカブシギ、タンギは水田を、タゲリ、イソシギは川筋を選択し、個体数・出現頻度ともに高かった。埋立地で採食していたのはツバメチドリ1種であったという。この他、ダイゼン、ミユビシギ、キリアイ、オオソリハシシギは干潟を、ヒバリシギ、コアオアシシギ、オオジシギ、オグロシギは水田を採食場所としていたことが確認されている。

アジサシ類ではアジサシとコアジサシが多い。アジサシは春と秋の渡りの時期に数千羽がみられるほか、8月中旬～下旬にはコアジサシが数千羽みられ、渡りの中継地として利用する(茂田・桑原1994)。但し、その個体数は年により変動が大きい。カモメ類は通年みられ、夏から秋にかけてはウミネコが優占し数千羽がみられる。夏期にオオセグロカモメが記録されることもある。冬期にはユリカモメやセグロカモメの個体数が増加し、厳冬期にはオオセグロカモメのほか、少数のシロカモメがみられるが、ワシカモメは稀である。

ガンカモ類の個体数は春と秋の渡りの時期に多い。狩猟期間中は海上で狩猟が行われるため攪乱が多く、金木橋～小櫃橋間の小櫃川にスズガモやヒドリガモ、ヨシガモなどを中心としたカモ類が休息している。河口域ではヒドリガモ、ヨシガモ、オナガガモのように海藻等を採食する種が優占し、時には数千羽が観察できる。谷津干潟や養老川河口で普通にみられるキンクロハジロ、ホシハジロ等は、個体数、観察例数とも多くない。オオハクチョウ、コハクチョウ等も極く稀に確認されている。

サギ類では、主にアオサギ、ダイサギ、コサギの3種が秋期に浸透実験池で埒をとるため、個体数が増加する。

陸鳥類は96種が確認されており、スズメ目が最も多く63種、次いでワシタカ目が12種、フクロウ目が6種確認されている。キジ目、ホトトギス目、ブッポウソウ目はそれぞれ3種、アマツバメ目とキツツキ目は2種、ハト目とヨタカ目はそれぞれ1種確認されている。これらの陸鳥類でもヨシ原や草原で生活するオオヨシキリやセッカ、オオジュリン等の個体数が多く、稀にマキノセンニュウやオオセッカの記録もあるほか、1991年以降はツリスガラの越冬が確認されている。一方、千葉県内の低地の雑木林で普通にみられるエナガやシジュウカラ、メジロ、シメ等は観察例数、個体数ともに少ない。ワシタカ目の観察記録は多く、チュウヒやチュウゲンボウ、ハヤブサ等が毎冬観察されるほか、ミサゴも毎冬10

～3月にみられている。しかし、かつて東京湾岸の埋立地に多く生息していたコミミズクや、雑木林等で繁殖するアオバズク等の記録は少ない。

小櫃川河口域で繁殖が確認された種数は多くない。カイツブリ、カルガモ、キジ、コチドリ、シロチドリ、ヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ハンボソガラスの11種の繁殖が百瀬・桑原（1988）によって報告されている。その後、新たに繁殖が記録された種はカワウとタマシギ、コアジサシの3種のみである。カワウは1995年10月から11月にかけて3～5巣が確認されたが、途中で営巣を放棄した。コアジサシは1992年には小櫃川左岸の埋立地で、1993年、1994年には金田海岸付近の埋立地で営巣した。但し、1991、1992年には工事により繁殖場所が攪乱され、繁殖は成功しなかった。新浜水鳥保護区で31種の繁殖が確認されている（蓮尾1986）ことと比較すると、13種という数はかなり少ない。これは人家付近でも普通に繁殖するキジバト、ハクセキレイ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハンボトガラスや、低地でも繁殖するトビ、モズ、ホオジロ等の繁殖例がないためである。さらに、水田や湿地等で繁殖するバン、ヒクイナ、イソシギ等が繁殖期にみられているが、河口域では営巣等の確認が得られていないことによる。

これらのことを総合的に解析すると、冬鳥と旅鳥に分類される種が多く、夏鳥と留鳥は少ないことがわかる。特に春・秋期にはシギ・チドリ類やヒタキ類等の旅鳥の種数も多い。個体数についても、種数と同様秋～春期に多い傾向がある。すなわち、河口域で繁殖する種は少なく、越冬地あるいは渡りの中継地として利用している種が多いことが当地での鳥類相の特徴である。

広い干潟と内陸湿地を有している干潟は、全国的にも少なく、ほとんどの地域では護岸整備や干拓事業によって塩性湿地が消失している。塩性湿地が残されている干潟は、本州では当地だけである。シギ・チドリ類等の水鳥類やヨシ原等で生活する陸鳥類の種数・個体数ともに多い小櫃川河口は、東京湾岸の干潟や低湿地帯の鳥類相を唯一残している環境と言える。

凡 例

原則として、学名、和名、その種についての簡単な説明とデータを付記した。データは当地において稀にしか確認されない種や、百瀬・桑原（1988）以降新たに追加された種について記載した。和名は日本産鳥類目録第5版（日本鳥学会1974）に準じ、これに記載されていない種については日本の野鳥（高野伸二1989）に準じた。各種についてのデータは、記録の古い順に日、月、年、性別（♂、♀）、成鳥（A）、幼鳥（J）、夏羽（SP）、冬羽（WP）、第1回冬羽（1W）、第1回夏羽（1S）等を記し、その後に羽数、観察場所、（ ）内に観察者名を記入した。説明文は、1987年以降の状況を、1988年の結果（表1）等に基づいて記載した。

調査範囲は百瀬・桑原（1988）の調査範囲に従い、河口右岸の三角州とその前浜干潟（前面）、河口左岸の前浜干潟（南面）、畔戸の集落や後背地の水田、北浜町とした。それ以外の牛込、瓜倉、中島の水田地帯の記録は除いた。但し、周辺地域における記録のうち、希少と思われる記録については地名と共に記載した。

表1 小櫃川河口、多摩川河口、東京湾海上の鳥類リスト

No.	種名	学名	小櫃川	東京湾海上	多摩川
1	カイツブリ	<i>Podiceps ruficollis</i>	●		●
2	ミミイカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>	●		
3	ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	●	●	●
4	アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>	●		
5	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	●	●	●
6	クロアジアホウドリ	<i>Diomedea nigripes</i>	●		
7	オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>		●	●
8	ハシボソミズナギドリ	<i>Puffinus tenuirostris</i>	●	●	●
9	コシジロウミツバメ	<i>Oceanodroma leucorhoa</i>			●
10	オーストンウミツバメ	<i>Oceanodroma tristrami</i>	●	●	
11	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●	●	●
12	ウミウ	<i>Phalacrocorax filamentosus</i>	●		●
13	コゲンカンドリ	<i>Fregata ariel</i>	●		
14	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	●		
15	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	●		●
16	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	●	●	●
17	ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	●		●
18	アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	●		●
19	ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	●	●	●
20	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	●	●	●
21	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	●	●	●
22	カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>	●		●
23	クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	●		●
24	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	●	●
25	ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia</i>	●		
26	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	●		
27	クロトキ	<i>Threskiornis melanocephalus</i>	●		
28	コクガン	<i>Branta bernicla</i>			●
29	マガン	<i>Anser albifrons</i>	●		
30	オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	●		
31	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	●		
32	アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>			●
33	ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>			●
34	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>			●
35	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●	●	●
36	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	●	●	●
37	コガモ	<i>Anas crecca</i>	●		●
38	トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	●		●
39	ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	●	●	●
40	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	●		●
41	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	●	●	●
42	アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	●		●
43	オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	●	●	●
44	シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	●		●
45	ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	●		●
46	アカハシハジロ	<i>Netta rufina</i>			●
47	ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	●	●	●
48	アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>			●
49	キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	●		●
50	スズガモ	<i>Aythya marila</i>	●	●	●

(表 つづき)

No.	和名	学名	小幡川	東京湾海上	多摩川
51	クロガモ	<i>Melanitta nigra</i>	●		
52	ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>	●		●
53	ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	●		●
54	ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>	●		●
55	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	●		●
56	カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>			●
57	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●	●	●
58	ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	●		
59	トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	●	●
60	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●		
61	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			●
62	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●		
63	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●		●
64	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	●		●
65	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	●		
66	チュウヒ	<i>Circus aeruginosus</i>	●		●
67	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	●		●
68	コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	●		●
69	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	●		●
70	ウズラ	<i>Coturnix coturnix</i>	●		
71	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>	●		
72	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	●		
73	マナヅル	<i>Grus vipio</i>	●		
74	クイナ	<i>Rallina aquaticus</i>	●		●
75	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	●		
76	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	●		●
77	オオバン	<i>Fulica atra</i>	●		●
78	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	●		
79	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	●		●
80	ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula</i>	●		●
81	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	●	●	●
82	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			●
83	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	●	●	●
84	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	●		●
85	オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	●		●
86	コバンチドリ	<i>Eudromias morinellus</i>	●		
87	ムナグロ	<i>Pluvialis dominica</i>	●		●
88	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	●		●
89	ケリ	<i>Microsarcops cinereus</i>	●		●
90	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	●		●
91	キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	●		●
92	ヒメハマシギ	<i>Calidris mauri</i>	●		●
93	トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	●		●
94	ヒバリシギ	<i>Calidris minutilla</i>	●		●
95	オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>			●
96	ヒメウズラシギ	<i>Calidris bairdii</i>			●
97	ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	●		●
98	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	●		●
99	サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>	●		●
100	コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>	●		●

(表 つづき)

No.	和名	学名	小櫃川	東京湾海上	多摩川
101	オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	●		●
102	ミュビシギ	<i>Crocethia alba</i>	●		●
103	ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmaeus</i>	●		●
104	エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>	●		●
105	キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>	●		●
106	オオハシシギ	<i>Limnodromus scolopaceus</i>	●		●
107	シベリアオオハシシギ	<i>Limnodromus semipalmatus</i>			●
108	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	●		●
109	アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	●		●
110	コキアシシギ	<i>Tringa flavipes</i>	●		●
111	コアアシシギ	<i>Tringa staganatilis</i>	●		●
112	アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	●		●
113	カラフトアオアシシギ	<i>Tringa guttifer</i>	●		●
114	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	●		●
115	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	●		
116	メリケンキアシシギ	<i>Tringa incana</i>			●
117	キアシシギ	<i>Tringa brevipes</i>	●	●	●
118	イソシギ	<i>Tringa hypoleucos</i>	●		●
119	ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>	●		●
120	オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>	●		●
121	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	●		●
122	ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>	●		●
123	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	●	●	●
124	チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	●		●
125	コシャクシギ	<i>Numenius minutus</i>	●		●
126	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●		●
127	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	●		●
128	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	●		●
129	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	●		●
130	アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>	●		●
131	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	●		●
132	トウゾクカモメ	<i>Stercorarius pomarinus</i>	●	●	
133	シロハラトウゾクカモメ	<i>Stercorarius longicaudus</i>	●		
134	ボナバルトカモメ	<i>Larus philadelphia</i>			●
135	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	●	●	●
136	セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	●	●	●
137	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	●	●	●
138	ワシカモメ	<i>Larus glaucescens</i>	●	●	●
139	シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>	●	●	●
140	カモメ	<i>Larus canus</i>	●	●	●
141	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	●	●	●
142	ズグロカモメ	<i>Laurs saundersi</i>	●		●
143	ミツユビカモメ	<i>Laurs tridactylus</i>		●	
144	ハジロクロハラアジサシ	<i>Sterna leucoptera</i>	●		●
145	クロハラアジサシ	<i>Sterna hybrida</i>			●
146	オニアジサシ	<i>Sterna caspia</i>	●		●
147	ハシブトアジサシ	<i>Sterna nilotica</i>	●		●
148	アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>	●	●	●
149	キョクアジサシ	<i>Sterna paradisaea</i>			●
150	ベニアジサシ	<i>Sterna dougallii</i>			●

(表 つづき)

No.	和名	学名	小瀬川	東京湾海上	多摩川
151	エリグロアジサシ	<i>Sterna sumatrana</i>			●
152	セグロアジサシ	<i>Sterna fuscata</i>	●		
153	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	●	●	●
154	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●		●
155	アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>			●
156	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	●		
157	ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	●		●
158	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●		
159	トラフズク	<i>Asio otus</i>	●		
160	コミミズク	<i>Asio flammeus</i>	●		
161	コノハズク	<i>Otus scops</i>	●		
162	オオコノハズク	<i>Otus bakkamoena</i>	●		
163	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	●		
164	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	●		
165	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	●		
166	ヒメアマツバメ	<i>Apus affinis</i>	●		
167	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	●		●
168	ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>	●		
169	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●		●
170	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>	●		
171	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	●		
172	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	●		
173	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>			●
174	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	●		●
175	ショウドウツバメ	<i>Riparia riparia</i>	●		●
176	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	●	●
177	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>		●	
178	イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>			●
179	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	●		
180	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●		
181	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	●	●
182	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●		●
183	ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	●		●
184	ムネアカタヒバリ	<i>Anthus cervinus</i>			●
185	タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>	●	●	●
186	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●		●
187	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●		●
188	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	●		
189	ノゴマ	<i>Erithacus calliope</i>	●		
190	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	●		
191	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	●		●
192	ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	●		●
193	イナバヒタキ	<i>Oenanthe isabellina</i>	●		
194	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	●	●	●
195	トラツグミ	<i>Turdus dauma</i>	●		
196	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	●		●
197	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●		
198	マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	●		
199	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●	●	●
200	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●		●

(表 つづき)

No.	和名	学名	小櫃川	東京湾海上	多摩川
201	オオセッカ	<i>Megalurus pryeri</i>	●		●
202	シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>	●		
203	マキノセンニュウ	<i>Locustella lanceolata</i>	●		
204	コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>			●
205	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	●		●
206	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	●		●
207	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus tenellipes</i>			●
208	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus occipitalis</i>	●		●
209	クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●		
210	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	●		●
211	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●		●
212	オジロビタキ	<i>Ficedula parva</i>	●		
213	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●		●
214	サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	●		
215	エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	●		
216	コサメビタキ	<i>Muscicapa latirostris</i>	●		●
217	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	●		
218	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●		
219	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>	●		●
220	コガラ	<i>Parus montanus</i>			●
221	ヒガラ	<i>Parus ater</i>			●
222	ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	●		●
223	シジュウカラ	<i>Parus major</i>	●		●
224	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	●		●
225	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●		●
226	コジュリン	<i>Emberiza yessoensis</i>	●		●
227	ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	●		●
228	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●		●
229	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●		●
230	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>			●
231	オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	●		●
232	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●		
233	カワラヒワ	<i>Carduelis sinca</i>	●	●	●
234	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	●		
235	ベニヒワ	<i>Acanthis flammea</i>	●		
236	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	●		
237	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●		●
238	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	●
239	コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>	●		
240	ムクドリ	<i>Syurnus cineraceus</i>	●	●	●
241	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●		●
242	オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	●		●
243	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	●	●
244	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●
計			214種	46種	177種

小櫃川河口のリストは百瀬・桑原（1988）に新しい資料を追加した。

多摩川河口のリストは箕輪ほか（1991）に杉坂（未発表）の記録を追加した。

目 録

Podicipediformes カイツブリ目

Podicipedidae カイツブリ科

1. *Podiceps ruficollis* カイツブリ

浸透実験池等で周年みられる。個体数は少ない。

2. *Podiceps nigricollis* ハジロカイツブリ

冬鳥。個体数は少ない。

3. *Podiceps auritus* ミミカイツブリ

1例のみ。30 Nov. 1991, 1羽。

4. *Podiceps grisegena* アカエリカイツブリ

百瀬・桑原(1988)により、河口域と周辺地域で各1例が報告されている。11 Dec. 1977, 1羽, 29 Apr. 1983, 11羽 高須沖。

5. *Podiceps cristatus* カンムリカイツブリ

近年、冬鳥として少数がみられる。6 Nov. 1988, 1羽。

Procellariiformes ミズナギドリ目

Diomedidae アホウドリ科

6. *Diomedea nigripes* クロアシアホウドリ

百瀬・桑原(1988)の1例のみ。17 Feb. 1974, 1羽 山階鳥類研究所に骨格標本あり。

Procellariidae ミズナギドリ科

7. *Calonectris leucomelas* オオミズナギドリ

旅鳥として主に秋期にみられる。個体数は少ない。

8. *Puffinus tenuirostris* ハシボンミズナギドリ

旅鳥。5月下旬～6月にかけてみられる。個体数は少ない。

Hydrobatidae ウミツバメ科

9. *Oceanodroma tristrami* オーストンウミツバメ

1例のみ。16 May 1987, J 4羽 標識調査 足環番号4 A-01152～5 (茂田良光)。

Pelecaniformes ペリカン目

Phalacrocoracidae ウ科

10. *Phalacrocorax carbo* カワウ

以前は少なかったが1987年以降普通にみられ、個体数は増加傾向にある。1995年には浸透実験池で営巣が確認され、10月28日に3巣、11月25日に5巣が確認されたが、狩猟期間が始まったために放棄された。15 Feb. 1987, 1羽, 22 Oct. 1994, 最大30羽。

11. *Phalacrocorax filamentosus* ウミウ

稀。百瀬・桑原(1988)により2例が報告されている。18 May 1975, 6羽, 26 Nov. 1975, 1羽。

Fregatidae グンカンドリ科

12. *Fregata ariel* コグンカンドリ

百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。4 June 1985, J 1 羽。

Ciconiiformes コウノトリ目

Ardeidae サギ科

13. *Botaurus stellaris* サンカノゴイ

1 例のみ。26 Sep. 1991, 1 羽。

14. *Ixobrychus sinensis* ヨシゴイ

旅鳥。個体数は少ない。

15. *Nycticorax nycticorax* ゴイサギ

周年を通じて普通にみられるが、個体数は少ない。冬期には金木橋上流右岸に塹をとるため、個体数は増加する。

16. *Butorides striatus* ササゴイ

稀な夏鳥もしくは旅鳥。夜間、飛行する時の声による確認が多い。

17. *Bubulcus ibis* アマサギ

旅鳥。少数が水田でみられる。

18. *Egretta alba* ダイサギ

周年を通じて普通にみられる。

19. *Egretta intermedia* チュウサギ

春期と秋期にみられる。1991年以降、個体数は減少した。

20. *Egretta garzetta* コサギ

周年を通じて普通にみられる。

21. *Egretta eulophotes* カラシラサギ

河口域と周辺地域で各 1 例の記録がある。30 June 1982, A SP 2 羽 干潟でダイサギとともに採食 (百瀬・桑原1988)、21 July 1990, J 1 羽 瓜倉の水田でコサギ、チュウサギの群中にみられた。

22. *Egretta sacra* クロサギ

1 例のみ。17 Aug. 1990, 1 羽 黒色型 中島の海岸で採食。

23. *Ardea cinerea* アオサギ

主に秋期～冬期に普通にみられる。

Threskiornithidae トキ科

24. *Platalea leucorodia* ヘラサギ

稀。同一個体と思われる 2 例が報告されている。9 Apr. 1990, J 1 羽 (田中義和)、14 Apr. 1990, 1 羽 中央クリークより飛び立ち久津間方面へ。

25. *Platalea minor* クロツラヘラサギ

稀な冬鳥。3 Nov. 1980, 2 羽 (山口剛)、29 Mar. 1984, 2 羽 (百瀬・桑原1988)、30 Mar. 1985, 1 羽 (百瀬・桑原1988)。

26. *Threskiornis melanocephalus* クロトキ

百瀬・桑原（1988）の1例のみ。29 Oct. 1985, 1羽 上空通過。

Anseriformes ガンカモ目

Anatidae ガンカモ科

27. *Anser albifrons* マガン

1例のみ。29 Oct. 1988, 1羽 実験池より飛び立つ。

28. *Cygnus cygnus* オオハクチョウ

稀。百瀬・桑原（1988）により2例が報告されている。下旬Oct. 1983~3 Jan. 1984, 1羽、29 Mar., 13 Apr. 1986, 1羽。

29. *Cygnus columbianus* コハクチョウ

稀な冬鳥。

30. *Anas platyrhynchos* マガモ

冬鳥。個体数は少ない。

31. *Anas poecilorhyncha* カルガモ

留鳥。普通にみられ、繁殖例もある。

32. *Anas crecca* コガモ

冬鳥。普通にみられるが、狩猟期間中の個体数は少ない。

33. *Anas formosa* トモエガモ

稀な冬鳥。19 Nov. 1990, † 2羽 金木橋上流、10 Nov. 1991, † 2羽 実験池。

34. *Anas falcata* ヨシガモ

冬鳥。普通にみられるが、狩猟期間中の個体数は少ない。1980年代は秋期の渡りの時期に3000~5000羽の群れがみられたが、1990年以降は数百羽の群れしかみられていない。

35. *Anas strepera* オカヨシガモ

冬鳥。個体数は少ない。

36. *Anas penelope* ヒドリガモ

冬鳥。普通にみられるが、狩猟期間中の個体数は少ない。

37. *Anas americana* アメリカヒドリ

稀な冬鳥。

38. *Anas acuta* オナガガモ

冬鳥。普通にみられるが、狩猟期間中の個体数は少ない。

39. *Anas querquedula* シマアジ

旅鳥。少数が実験池や水田でみられる。

40. *Anas clypeata* ハンビロガモ

冬鳥。個体数は少ない。

41. *Aythya ferina* ホシハジロ

稀な冬鳥。

42. *Aythya fuligula* キンクロハジロ

冬鳥。普通にみられるが、狩猟期間中の個体数は少ない。

43. *Aythya marila* スズガモ

冬鳥。普通にみられるが、狩猟期間中は河口域での個体数は少なく、金木橋上流で5000

羽以上が休息している。

44. *Melanitta nigra* クロガモ

百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。25 Dec. 1975, 1 羽。

45. *Melanitta fusca* ビロードキンクロ

百瀬・桑原 (1988) により、河口域と周辺地域で各 1 例が報告されている。15 Jan. 1977, 2 羽 高須沖、23, 27 Sep. 1985, 1 羽。

46. *Bucephala clangula* ホオジロガモ

冬鳥。個体数は少ない。

47. *Mergus albellus* ミコアイサ

稀な冬鳥。6 Nov. 1988, 1 羽 eclipse (桐原政志)、20 Oct. 1993, ♀ 1 羽 実験池。

48. *Mergus serrator* ウミアイサ

稀な冬鳥。

Falconiformes ワシタカ目

Accipitridae ワシタカ科

49. *Pandion haliaetus* ミサゴ

冬鳥として 2～3 羽がみられる。12 May 1990; 1 羽、22 Aug. 1993, 1 羽、7 Jan. 1994, 最大 5 羽。

50. *Pernis apivorus* ハチクマ

稀。百瀬・桑原 (1988) により 2 例が報告されている。いずれも上空通過の記録。24 May 1980, 4 羽、28 May 1985, 1 羽。

51. *Milvus migrans* トビ

夏の一時期を除き、普通にみられる。

52. *Accipiter gentilis* オオタカ

稀な冬鳥。1991年12月より観察されるようになった。Dec. 1991, (茂田良光)、15 Jan. 1992, J 1 羽、27 Mar. 1993, A 1 羽 (田中義和)、3 Apr. 1993, A 1 羽 実験池 (田中義和)、23 Dec. 1993, J 1 羽、5 Nov. 1994, J 1 羽。

53. *Accipiter nisus* ハイタカ

百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。22 Feb. 1986, ♀ 1 羽 松林。

54. *Buteo buteo* ノスリ

百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。15 Jan. 1982, 1 羽。

55. *Butastur indicus* サンバ

稀。百瀬・桑原 (1988) により 2 例が報告されている。27 Apr. 1975, 1 羽、1 May 1975, 1 羽。

56. *Circus cyaneus* ハイイロチュウヒ

河口域と周辺地域で各 1 例の記録がある。19 Dec. 1982, ♂ 1 羽 (百瀬・桑原1988)、26 Nov. 1988, ♀ 1 羽 金木橋上流。

57. *Circus aeruginosus* チュウヒ

冬鳥。個体数は少ない。

Falconidae ハヤブサ科

58. *Falco peregrinus* ハヤブサ

冬鳥。個体数は少ない。19 Mar. 1994, A 2羽 (田中義和)。

59. *Falco columbarius* コチョウゲンボウ

河口域と周辺地域で各1例の記録がある。16 Dec. 1982, 1羽 (百瀬・桑原1988)、27 Nov. 1988, ♂ 1羽 牛込。

60. *Falco tinnunculus* チョウゲンボウ

冬鳥。個体数は少ない。

Galliformes キジ目

Phasianidae キジ科

61. *Coturnix coturnix* ウズラ

稀。百瀬・桑原 (1988) により3例が報告されている。7 May 1975, 1羽、29 Apr. 1980, 1羽、15 Dec. 1982, 2羽。

62. *Bambusicola thoracica* コジュケイ

留鳥と思われるが、稀。

63. *Phasianus colchicus* キジ

留鳥。普通にみられ、近年増加の傾向にある。

Gruiformes ツル目

Gruidae ツル科

64. *Grus vipio* マナヅル

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。17 Oct. 1984, A 2羽 内陸の水田からヨシ原内の泥地に移る。

Rallidae クイナ科

65. *Rallus aquaticus* クイナ

冬鳥。個体数は少ない。1989年以前は内陸の水田で少数が越冬していた。5 Jan. 1992, 1羽 (田中義和)、17 Feb. 1992, 1羽 (田中義和)、15 Nov. 1992, 1羽。

66. *Porzana fusca* ヒクイナ

夏鳥として、内陸の水田等でみられる。個体数は少ない。

67. *Gallinula chloropus* バン

夏鳥として実験池や内陸の水田等でみられる。個体数は少ない。

68. *Fulica atra* オオバン

冬鳥として実験池でみられる。個体数は少ない。15 Jan. 1989, 1羽。

Charadriiformes チドリ目

Rostratulidae タマシギ科

69. *Rostratula benghalensis* タマシギ

夏鳥として、主に内陸の水田等でみられる。個体数は少ない。8 Aug. 1992, ♂ 1羽 ♀ 1

羽 畔戸の休耕田で抱卵中。

Haematopodidae ミヤコドリ科

70. *Haematopus ostralegus* ミヤコドリ

稀な冬鳥。29 Oct. 1983, 1羽 (百瀬・桑原1988)、10 Sep. 1986, 1羽 (百瀬・桑原1988)、27 Nov. 1989, 2羽 (田中義和)、3 Jan. 1990, 2羽 (田中義和)。

Charadriidae チドリ科

71. *Charadrius hiaticula* ハジロコチドリ

主に冬鳥として渡来するが稀。1985～1986年の冬に越冬した。

72. *Charadrius dubius* コチドリ

夏鳥。個体数は少ない。河口付近の埋立地等で繁殖記録があり、7～8月には内陸の水田で幼鳥が多くみられる。

73. *Charadrius alexandrinus* シロチドリ

留鳥。特に秋期～冬期に個体数が多い。

74. *Charadrius mongolus* メダイチドリ

旅鳥。冬期にも記録があり、普通にみられる。

75. *Charadrius leschenaultii* オオメダイチドリ

稀な旅鳥。15 Aug. 1989, 1羽。

76. *Eudromias morinellus* コバシチドリ

1例のみ。18～24 Sep. 1988, J 1羽。

77. *Pluvialis dominica* ムナグロ

旅鳥。内陸の水田では普通にみられる。15 Oct. 1991, 150羽。

78. *Pluvialis squatarola* ダイゼン

旅鳥もしくは冬鳥。個体数は少ない。

79. *Microsarcops cinereus* ケリ

稀な旅鳥。百瀬・桑原 (1988) により、1985年9月18日～10月30日に1～2羽が記録されているほか、以下の1例のみ。8 Aug. 1992, 1羽 畔戸の休耕田。

80. *Vanellus vanellus* タゲリ

冬鳥として、内陸の水田等でみられる。個体数は少ない。

Scolopacidae シギ科

81. *Arenaria interpres* キョウジョシギ

旅鳥。普通にみられる。

82. *Calidris mauri* ヒメハマシギ

1例のみ。14 July 1990, SP-WP 1羽 畔戸の休耕田。

83. *Calidris ruficollis* トウネン

旅鳥。普通にみられる。

84. *Calidris subminuta* ヒバリシギ

旅鳥。8～9月に内陸の水田で普通にみられるが、干潟での個体数は少ない。30 Aug.

- 1987, 2羽 牛込, 15 Aug. 1990, 2羽 中島, 4 Sep. 1994, 1羽。
85. *Calidris acuminata* ウズラシギ
旅鳥。干潟での個体数は少ない。19 Sep. 1992, 3羽, 3 Sep. 1994, 2羽, 21 Oct. 1994, 1羽。
86. *Calidris alpina* ハマシギ
冬鳥。個体数は多い。
87. *Calidris ferruginea* サルハマシギ
稀な旅鳥。26 May 1990, A SP 3羽 牛込海岸, 27 Aug. 1994, WP 1羽。
88. *Calidris canutus* コオバシギ
稀な旅鳥として主に秋期にみられる。16 Apr. 1994, A SP 1羽。
89. *Calidris tenuirostris* オバシギ
旅鳥。個体数は少ない。
90. *Crocethia alba* ミユビシギ
冬鳥として普通にみられる。
91. *Eurynorhynchus pygmeus* ヘラシギ
稀な旅鳥として9月に記録がある。
92. *Philomachus pugnax* エリマキシギ
旅鳥として秋期に少数が渡来する。26 May 1990, ♀ 1羽 牛込, 21 Aug. 1993, ♂ 1羽 中島, 3 Sep. 1994, ♀ 1羽。
93. *Limicola falcinellus* キリアイ
旅鳥として秋期に少数が渡来する。15 Aug. 1990, 1羽, 8 Sep. 1992, 6羽, 10 Sep. 1994, 1羽。
94. *Limnodromus scolopaceus* オオハシシギ
百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。11, 14, 15 Oct. 1975, 1羽。
95. *Tringa erythropus* ツルシギ
旅鳥として秋期に記録される。個体数は少ない。
96. *Tringa totanus* アカアシシギ
旅鳥として少数が渡来する。11 Aug. 1987, 1羽, 13 Sep. 1992, 2羽, 21 Aug. 1993, 1羽 中島, 10 Sep. 1994, 1羽。
97. *Tringa flavipes* コキアシシギ
百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。9 Sep. 1982, 1羽 ヨン原上空を低く旋回する。
98. *Tringa stagnatilis* コアアシシギ
稀な旅鳥。2 Oct. 1983, 5羽 (百瀬・桑原1988), 22 Sep. 1986, 1羽 (百瀬・桑原1988), 29 Aug. 1987, 1羽, 5 Oct. 1990, 1羽, 3 Sep. 1994, 1羽。
99. *Tringa nebularia* アオアシシギ
旅鳥として普通にみられる。
100. *Tringa guttifer* カラフトアオアシシギ
1例のみ。22 Aug. 1993, 1羽 干潟上を飛行。
101. *Tringa ochropus* クサシギ
稀な旅鳥として主に秋期にみられる。

102. *Tringa glareola* タカブシギ

旅鳥として主に秋期に、内陸の水田等でみられる。

103. *Tringa brevipes* キアシシギ

旅鳥。普通にみられる。

104. *Tringa hypoleucos* イソシギ

留鳥として少数がみられる。繁殖は確認されていない。

105. *Xenus cinereus* ソリハンシギ

旅鳥。普通にみられる。

106. *Limosa limosa* オグロンギ

稀な旅鳥として主に秋期にみられる。

107. *Limosa lapponica* オオソリハンシギ

旅鳥。個体数は少ない。

108. *Numenius arquata* ダイシャクシギ

旅鳥。個体数は少ない。21 Mar. 1993, 5羽、16 Apr. 1994, 2羽。

109. *Numenius madagascariensis* ホウロクシギ

旅鳥。個体数は少ない。

110. *Numenius Phaeopus* チュウシャクシギ

旅鳥。普通にみられる。22 May 1994, 115羽、3 Sep. 1994, 50羽。

111. *Numenius minutus* コシャクシギ

1例のみ。27 Aug. 1983, J 1羽 標識調査 足環番号070-00224 (茂田良光)。

112. *Scolopax rusticola* ヤマシギ

稀な冬鳥。

113. *Gallinago gallinago* タシギ

旅鳥もしくは冬鳥。普通にみられる。

114. *Gallinago hardwickii* オオジシギ

旅鳥。個体数は少ない。

Recurvirostridae セイタカシギ科

115. *Himantopus himantopus* セイタカシギ

河口域での記録は以下の1例のみ。内陸の水田では少数がみられる。15 May 1988, 1羽。

Phalaropodidae ヒレアシシギ科

116. *Phalaropus lobatus* アカエリヒレアシシギ

稀な旅鳥。29 Apr. 1976, 1羽 標識調査 (百瀬・桑原1988)、31 Aug. 1976, A 1羽 標識調査 足環番号020-81056 (茂田良光)、30 Aug. 1981, J 1羽 足環番号030-69215 (茂田良光)、2 Sep. 1981, J 1羽 足環番号030-69220 (茂田良光)、3 Sep. 1981, ♂ A 1羽 J 2羽 標識調査 足環番号030-69221~3 (茂田良光)、22 Sep. 1991, 2羽、27 Aug. 1992, ♀ A 1羽 標識調査 足環番号3 B-30304 (茂田良光)。

Glareolidae ツバメチドリ科

117. *Glareola maldivarum* ツバメチドリ

旅鳥として少数がみられる。13 May 1989, A S P 2羽 北浜町、4 Aug. 1990, WP 4羽 瓜倉・中島の水田、14 May 1994, A S P 1羽 畔戸の埋立地、28 Aug. 1994, WP 5羽。

Stercorariidae トウゾクカモメ科

118. *Stercorarius pomarinus* トウゾクカモメ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。14 Aug. 1986, 1羽。

119. *Stercorarius longicaudus* シロハラトウゾクカモメ

稀。百瀬・桑原 (1988) により上空通過の2例が報告されている。19 May 1983, 1羽、20 May 1983, 1羽。

Laridae カモメ科

120. *Larus ridibundus* ユリカモメ

冬鳥。普通にみられる。

121. *Larus argentatus* セグロカモメ

冬鳥。普通にみられる。

122. *Larus schistisagus* オオセグロカモメ

冬鳥。個体数は少ない。

123. *Larus glaucescens* ワシカモメ

稀な冬鳥。6 May 1990, 1羽 (青木正志)。

124. *Larus hyperboreus* シロカモメ

冬鳥。個体数は少ない。

125. *Larus canus* カモメ

冬鳥。普通にみられる。

126. *Larus crassirostris* ウミネコ

留鳥。夏から秋にかけて個体数が多く、普通にみられる。

127. *Larus saundersi* ズグロカモメ

冬鳥。1989～1990年の冬以降、1～2羽が越冬するようになった。11 Nov. 1989, 1羽、4 Jan. 1991, 2羽、15 Jan. 1992, 1羽、22 Nov. 1992, 1羽、3 Jan. 1993, 1羽、28 Nov. 1993, 1羽、7 Jan. 1994, 1羽、5 Feb. 1994, 3羽 (田中義和)、19 Mar. 1994, 1羽。

128. *Sterna leucoptera* ハジロクロハラアジサシ

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。18 May 1975, 1羽、29 Aug. 1986, J 1羽。

129. *Sterna caspia* オニアジサシ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。18 May 1986, A S P 1羽。

130. *Sterna nilotica* ハシブトアジサシ

稀に6～7月にみられる。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。28 June 1981, 1 S 1羽、4、5、7 July 1985, 1羽。

131. *Sterna hirundo* アジサシ

旅鳥。普通にみられ、個体数も多い。10 May 1987, 約1000羽、28 Aug. 1994, 約7000羽。

132. *Sterna fuscata* セグロアジサシ

1例のみ。29 Aug. 1989, 1 S 1羽 標識調査 足環番号 5 A-10038 (尾崎清明・茂田良光)。

133. *Sterna albifrons* コアジサシ

夏鳥。8月上～中旬には数千羽がみられる。3 May 1989, 100羽、23 Aug. 1992, 約4000羽、19 Aug. 1993, 約2000羽、8 Aug. 1994, 約9000羽 瓜倉～河口、20 Aug. 1994, 約5000羽、30 July 1995, 約2000羽、6 Aug. 1995, 約12000羽、13 Aug. 1995, 約10000羽。

Columbiformes ハト目

Columbidae ハト科

134. *Streptopelia orientalis* キジバト

留鳥。普通にみられる。

Cuculiformes ホトトギス目

Cuculidae ホトトギス科

135. *Cuculus canorus* カッコウ

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。25 May 1974, 1羽 松林、14 Oct. 1975, 1羽。

136. *Cuculus saturatus* ツツドリ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。2 Oct. 1983, 1羽。

137. *Cuculus poliocephalus* ホトトギス

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。7 May 1976, 1羽、上旬 May 1977, 1羽。

Strigiformes フクロウ目

Strigidae フクロウ科

138. *Asio otus* トラフズク

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。18 Feb. 1975, 死体の一部、8 Feb. 1976, 2羽 松林。

139. *Asio flammeus* コミミズク

稀な冬鳥。1988年以降、越冬の記録はなくなった。12 Apr. 1987, 2羽 ハマシギにモビソグをうける、5, 11, 25, 26 Jan. 1992, 1羽 (田中義和)。

140. *Otus scops* コノハズク

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。17 Oct. 1982, 1羽 赤色型。

141. *Otus bakkamoena* オオコノハズク

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。19 Dec. 1982, 羽数不明、28 Dec. 1982, 羽数不明。

142. *Ninox scutulata* アオバズク

稀な旅鳥。主に秋期に松林等でみられる。

143. *Strix uralensis* フクロウ

稀な冬鳥として、松林等でみられる。17 Jan. 1992, 1羽 (田中義和)。

Caprimulgiformes ヨタカ目

Caprimulgidae ヨタカ科

144. *Caprimulgus indicus* ヨタカ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。14 Oct. 1975, 1羽。

Apodiformes アマツバメ目

Apodidae アマツバメ科

145. *Apus affinis* ヒメアマツバメ

1例のみ。5 Dec. 1993, 1羽 (桐原政志)

146. *Apus pacificus* アマツバメ

旅鳥。個体数は少ない。18 Oct. 1986, 5羽、20 Apr. 1989, 5羽。

Coraciiformes ブッポウソウ目

Alcedinidae カワセミ科

147. *Ceryle lugubris* ヤマセミ

1例のみ。26 Nov. 1991, ♂ 1羽 実験池。

148. *Alcedo atthis* カワセミ

冬鳥として実験池等で少数がみられる。

Upupidae ヤツガシラ科

149. *Upupa epops* ヤツガシラ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。11 Apr. 1982, 1羽。

Piciformes キツツキ目

Picidae キツツキ科

150. *Jynx torquilla* アリスイ

稀な冬鳥。5 Dec. 1990, 1 W 1羽 標識調査 足環番号 3 A-13776 (茂田良光)、7 Dec. 1991, A 1羽 標識調査 足環番号 3 A-13581 (茂田良光)、8 Dec. 1991, 1 W 1羽 標識調査 足環番号 3 A-13582 (茂田良光)。

151. *Dendrocopos major* アカゲラ

1例のみ。18 Oct. 1986, ♂ 1羽 松林。

Passeriformes スズメ目

Alaudidae ヒバリ科

152. *Alauda arvensis* ヒバリ

留鳥。普通にみられる。

Hirundinidae ツバメ科

153. *Riparia riparia* ショウドウツバメ

旅鳥として主に秋期、少数がみられる。

154. *Hirundo rustica* ツバメ

夏鳥。普通にみられる。

Motacillidae セキレイ科

155. *Motacilla flava* ツメナガセキレイ

1例のみ。17 Sep. 1985, J 1羽 標識調査 足環番号021-70166 (茂田良光)。

156. *Motacilla cinerea* キセキレイ

稀。百瀬・桑原 (1988) により3例が報告されている。29 Sep. 1975, 1羽、15 Sep. 1979, 1羽、18 Sep. 1985, 1羽。

157. *Motacilla alba* ハクセキレイ

留鳥。夏期には少ないが、冬期には普通にみられる。

158. *Motacilla grandis* セグロセキレイ

稀な冬鳥。個体数は少ない。

159. *Anthus hodgsoni* ビンズイ

冬鳥として松林に少数がみられたが、1985年以降の記録は少ない。27 Oct. 1985 約5羽。

160. *Anthus spinoletta* タヒバリ

冬鳥。普通にみられる。19 Nov. 1990, 40羽 北浜町。

Pycnonotidae ヒヨドリ科

161. *Hypsipetes amaurotis* ヒヨドリ

留鳥。普通にみられる。秋期には20~30羽の群れが松林でみられる。

Laniidae モズ科

162. *Lanius bucephalus* モズ

冬鳥。普通にみられる。夏期の個体数は少ない。

Bombycillidae レンジャク科

163. *Bombycilla garrulus* キレンジャク

河口域と周辺地域で各1例の記録がある。11 Feb. 1993, 1羽 (田中義和)、15 Jan. 1989, 1羽 瓜倉。

Muscicapidae ヒタキ科

164. *Erithacus calliope* ノゴマ

稀な旅鳥として2例の記録がある。29 Apr. 1980, 1羽 (百瀬・桑原 1988)、10 Oct. 1994, ♂ 1羽 (田中義和)。

165. *Tarsiger cyanurus* ルリビタキ

- 百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。16 Nov. 1985, ♀ type1 羽 松林。
166. *Phoenicurus aureus* ジョウビタキ
冬鳥。普通にみられる。
167. *Saxicola torquata* ノビタキ
旅鳥として秋期、少数がみられる。
168. *Oenanthe isabellina* イナバヒタキ
1 例のみ。4 Sep. 1995, 1 W 1 羽 (五味川達也)。
169. *Monticola solitarius* イソヒヨドリ
稀な冬鳥。1 Oct. 1986, 1 羽, 16 Sep. 1991, 1 羽 (鈴木明)、5 Nov. 1994, 1 羽。
170. *Turdus dauma* トラツグミ
稀な冬鳥。松林でみられる。
171. *Turdus chrysolaus* アカハラ
稀。百瀬・桑原 (1988) により 3 例が報告されている。8 Jan. 1976, 1 羽, 1 May 1981, ♀
1 S 1 羽 標識調査 足環番号050-12613 (茂田良光)、1 May 1984, 1 羽。
172. *Turdus pallidus* シロハラ
百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。29 Dec. 1983, 羽数不明。
173. *Turdus obscurus* マミチャジナイ
百瀬・桑原 (1988) の 1 例のみ。17 Oct. 1982, 2 羽。
174. *Turdus naumanni* ツグミ
冬鳥。普通にみられる。
175. *Cettia diphone* ウグイス
冬鳥。個体数は少ない。
176. *Megalurus pryeri* オオセッカ
稀な冬鳥。15 Jan. 1982, 2 羽 (百瀬・桑原1988)、10 Dec. 1989, ♂ 1 W 1 羽 標識調査
足環番号 2 B-0844 (茂田良光)、3 Dec. 1990, 1 W 1 羽 標識調査 足環番号 2 D-
74088 (茂田良光)、4 Dec. 1991, ♀ 1 W 1 羽 標識調査 足環番号 2 D-80053 (茂田良
光)、5 Dec. 1991, ♂ A 1 羽 標識調査 足環番号 2 D-74211 (茂田良光)。
177. *Locustella ochotensis* シマセンニュウ
稀な旅鳥。28 Sep. 1978, J 1 羽 標識調査 足環番号021-54437 (茂田良光)、15 Sep.
1992, A 1 羽 標識調査 足環番号 2 D-74532 (茂田良光)。
178. *Locustella lanceolata* マキノセンニュウ
1 例のみ。4 Sep. 1994, J 1 羽 標識調査 足環番号 2 G-19106 (茂田良光)。
179. *Acrocephalus arundinaceus* オオヨシキリ
夏鳥。普通にみられる。
180. *Phylloscopus borealis* メボソムシクイ
稀な旅鳥として秋期に松林でみられる。
181. *Phylloscopus occipitalis* センダイムシクイ
稀な旅鳥。29 Apr. 1989, ♂ 1 羽 金木橋付近でさえぎり。
182. *Regulus regulus* キクイタダキ
稀。百瀬・桑原 (1988) により 3 例が報告されている。17 Oct. 1982, 羽数不明、14

Nov. 1982, 1羽、20 Nov. 1985, 12羽。

183. *Cisticola juncidis* セッカ

留鳥。普通にみられる。5 Sep. 1993, 20羽。

184. *Ficedula narcissina* キビタキ

旅鳥として秋期に松林でみられるが個体数は少ない。15 Oct. 1988, ♀ 3羽、2 Oct. 1992, ♀ A 2羽、7 Oct. 1992, ♂ A 1羽、8 May 1993, ♂ A 1羽、20 Oct. 1993, ♀ 1羽。

185. *Ficedula parva* オジロビタキ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。26 Dec. 1975, 死体の一部。

186. *Cyanoptila cyanomelana* オオルリ

稀な旅鳥。17 Oct. 1982, 1羽 (百瀬・桑原1988)、2 Oct. 1983, 1羽 (百瀬・桑原1988)、10 Oct. 1985, 1羽 松林。

187. *Muscicapa sibirica* サメビタキ

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。28 Sep. 1975, 1羽、15 Oct. 1983, 1羽。

188. *Muscicapa griseisticta* エゾビタキ

稀。百瀬・桑原 (1988) により3例が報告されている。26, 27, 28 Sep. 1975, 24 Oct. 1982, 1羽、2 Oct. 1983, 羽数不明。

189. *Muscicapa latirostris* コサメビタキ

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。17 Oct. 1982, 1羽、22 Oct. 1983, 1羽。

190. *Terpsiphone atrocaudata* サンコウチョウ

1例のみ。31 Aug. 1979, J 1羽 標識調査 足環番号030-53258 (茂田良光)。

Aegithalidae エナガ科

191. *Aegithalos caudatus* エナガ

稀。百瀬・桑原 (1988) により2例が報告されている。3 Jan. 1978, 羽数不明、1 June 1984, 2羽。

Remizidae ツリスガラ科

192. *Remiz pendulinus* ツリスガラ

1991~1992年冬より越冬が確認された。個体数は少ない。6 Dec. 1991, 8羽 (茂田良光) ~18 Apr. 1992, 9羽 (田中義和)、20 Dec. 1992, 30羽~1 May 1993, 3羽 (田中義和)、23 Dec. 1993, 声のみ~24 Apr. 1994, 10羽 (田中義和)。

Paridae シジュウカラ科

193. *Parus varius* ヤマガラ

百瀬・桑原 (1988) の1例のみ。2, 3 May 1974, 1羽。

194. *Parus major* シジュウカラ

留鳥。個体数は少ない。

Zosteropidae メジロ科

195. *Zosterops japonica* メジロ

冬鳥。松林等でみられるが個体数は少ない。

Emberizidae ホオジロ科

196. *Emberiza cioides* ホオジロ

冬鳥。普通にみられる。

197. *Emberiza yessoensis* コジュリン

冬鳥。個体数は少ない。

198. *Emberiza fucata* ホオアカ

冬鳥。個体数は少ない。12 Dec. 1988, ♂ J 1羽 (茂田良光)。

199. *Emberiza rustica* カシラダカ

冬鳥。個体数は少ない。

200. *Emberiza spodocephala* アオジ

冬鳥。普通にみられる。

201. *Emberiza schoeniclus* オオジュリン

冬鳥。普通にみられる。

Fringillidae アトリ科

202. *Fringilla montifringilla* アトリ

22 Oct. 1994, 1羽 マヒワ群中にて確認。

203. *Carduelis sinica* カワラヒワ

留鳥。普通にみられる。

204. *Carduelis spinus* マヒワ

冬鳥。近年では以下の1例のみ。22 Oct. 1994, 50羽 松林。

205. *Acanthis flammea* ベニヒワ

百瀬・桑原(1988)の1例のみ。8 Oct. 1977, 8羽。

206. *Uragus sibiricus* ベニマシコ

1例のみ。17 Mar. 1992, ♂ 1♀羽 1羽 (田中義和)。

207. *Coccothraustes coccothraustes* シメ

冬鳥。個体数は少ない。

Ploceidae ハタオリドリ科

208. *Passer montanus* スズメ

留鳥。普通にみられる。

Sturnidae ムクドリ科

209. *Sturnus philippensis* コムクドリ

稀。河口域と周辺地域で各1例がある。24 Sep. 1984, 2羽 (百瀬・桑原1988)、28 Apr. 1991, ♂ 1羽 金木橋。

210. *Sturnus cineraceus* ムクドリ

留鳥。普通にみられる。

Corvidae カラス科

211. *Garrulus glandarius* カケス

百瀬・桑原(1988)の1例のみ。29 Sep. 1974, 羽数不明。

212. *Cyanopica cyana* オナガ

留鳥。個体数は少ない。29 Apr. 1989, 3羽 畔戸。

213. *Corvus corone* ハシボソガラス

留鳥。普通にみられる。

214. *Corvus macrorhynchos* ハシブトガラス

留鳥。普通にみられる。

謝 辞

本稿をまとめるにあたって、千葉県立中央博物館の吉村光敏氏には小櫃川の地史について御教授頂いた。また、山階鳥類研究所の茂田良光、三田村あまね、尾崎清明の各氏には標識調査のデータを提供して頂いた。日本道路公団木更津工事事務所からは調査データを提供して頂いた。日本自然保護協会の田中義和、日本野鳥の会神奈川支部の杉坂学、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の嶋田哲郎、千葉県立中央博物館の山口剛、千葉県立中央博物館友の会の鈴木明、木幡冬樹、千葉市立花見川第二中学校の青木正志、千葉県立行徳高校の桐原政志、東京都在住の五味川達也の各氏に観察記録を提供して頂いた。東京農工大学の石黒夏美氏には資料の整理を手伝って頂いた。

以上の方々に厚く御礼申し上げる。

なお、この研究は、平成7年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成(1995-05)号の一部である。

要 約

小櫃川河口域は、千葉県袖ヶ浦市から木更津市にかけての沿岸部に広がる盤州干潟の西部に位置している。河口の三角州には泥質の塩性湿地や感潮クリークがみられ、陸地部分にはヨシ原やクロマツ植林等の植生がみられる。また、堤内は大部分が水田として利用されている。現在、このような低湿地帯を保存した環境は、東京湾岸では小櫃川河口しかない。そのため、この地域の鳥類相は、東京湾岸の鳥類相をよく表していると考えられる。ただし、河口付近では東京湾横断道路の建設工事が進んでおり、鳥類相にも大きな変化がみられる。したがって、現在の鳥類相の状況を記録しておく必要がある。

小櫃川河口域では1974～1995年までに214種の鳥類が確認された。小櫃川河口の鳥類相の特徴は、水鳥類の種数が多いことである。また、個体数も多く、特にシギ・チドリ類、カモ類、カモメ・アジサシ類の個体数が多いことが特徴である。陸鳥類ではヨシ原等の草地に生息するオオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* やセッカ *Cisticola juncidis*、オオジュリン *Emberiza schoeniclus* 等の個体数が多い。

シギ・チドリ類は65種が記録された。その中でもハマシギ *Calidris alpina* やキアシ

ギ *Tringa brevipes*、シロチドリ *Charadrius alexandrius* の個体数が多かった。しかし、1970年代以降、個体数は減少している。ガンカモ類は22種が記録され、ヒドリガモ *Anas penelope* やオナガガモ *A. acuta*、ヨシガモ *A. falcata*、スズガモ *Aythya marila* の個体数が多く、優占している。しかし、この4種の個体数変動は激しく、特に狩猟期間中は不安定である。カモメ・アジサシ類は14種が記録され、特にアジサシとコアジサシの大群が渡りの時期にみられる。アジサシ *Sterna hirundo* は春と秋に数万羽が飛来する。コアジサシ *S. albifrons* は秋期に数千羽が渡来し、船橋中央埠頭にみられるような秋の渡りの群れを形成する。コアジサシは1995年8月6日に12000羽が確認された。

以上のように、小櫃川河口は東京湾岸の低湿地帯の鳥類相を唯一保存した、貴重な環境であると言える。

引用文献

- 千葉県. 1975. 千葉県産鳥類目録. 134pp. 千葉県環境部, 千葉.
- 千葉の干潟を守る会. 1973. 小櫃川河口の冬鳥. 野鳥38:210-211.
- 蓮尾純子. 1986. 保護区の鳥たち. 行徳野鳥観察舎友の会編 よみがえれ新浜. 152pp.
- 石川勉. 1993. 東京湾の渡り鳥. 246pp. 晶文社, 東京.
- 石川勉・桑原和之. 1984. 谷津干潟の鳥類とその保護. Strix3:90-98.
- 岩瀬徹・桑原和之. 1989. 東京湾の自然の豊庫 小櫃川河口. 自然保護328:18-19.
- 貝塚爽平. 1992. 平野と海岸を読む (自然景観の読み方5). 142pp. 岩波書店, 東京.
- 桑原和之・田村満. 1991. 小櫃川河口域におけるシギ・チドリ類の分布について. 1990年度大会一般講演 (要旨). 日本鳥学会誌39(4):127.
- 桑原和之・田村満・東陽一. 1993. 南房総国立公園の鳥類 富津岬の鳥類. 自然公園自然環境調査報告書:73-82.
- 桑原和之・山本雅彦. 1986. 小櫃川河口の鳥類. 日本鳥学会誌35(2/3):94-95.
- 箕輪義隆・桑原和之・嶋田哲郎. 1995. 東京湾岸の干潟における鳥相の相違. 日本鳥学会講演要旨集:87.
- 箕輪義隆・嶋田哲郎・桑原和之・金田彦太郎・鈴木康之・杉坂学. 1991. 多摩川河口鳥類目録. 神奈川自然誌資料12:1-15.
- 宮野伸也・山口剛. 1994. キイロホソゴミムシ (甲虫目:オサムシ科) の生態. 千葉中央博自然誌研究報告書 (自然) 3(1):105-108.
- 百瀬邦和. 1974. 干潟における鳥類の摂餌と底生生物の相互関係について. 東邦大特研文集Ⅲ. 56pp.
- 百瀬邦和. 1975. 河口域におけるシギ・チドリの環境選択に関する研究. 東邦大特研文集Ⅱ. 33pp.
- 百瀬邦和・桑原和之. 1988. 小櫃川河口の鳥類. 1. 小櫃川河口鳥類目録 (1974-1986). 千葉県生物誌37:80-96.
- 成田篤彦. 1993. 房総の動物誌. 258pp. うらべ書房, 千葉.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録 改訂第5版. 120pp. 学習研究社, 東京.
- 延原肇・宮崎英生・宮本隆・芹山素一. 1980. 小櫃川河口の塩湿地植物群落. 千葉県木更津市小櫃川河口干潟の生態学的研究Ⅰ:69-94.
- 大嶋剛・風呂田利夫. 1980. 小櫃川河口干潟周辺における底生動物の分布. 千葉県木更津市小櫃川河

- 口干潟の生態学的研究 I : 45-68.
- 尾崎清明. 1975. シロチドリ (*Charadrius alexandrinus*) の干潟における採餌形態 (小櫃川河口). 東邦大特研文集 II . 46pp.
- 茂田良光・桑原和之. 1994. コアジサシの分布と渡り. 私たちの自然35(9):14-17.
- 嶋田哲郎・桑原和之. 1994. 千葉県市原市養老川河口域の鳥類. 市原市自然環境調査報告書.
- 島根県立博物館. 1978. 伊達コレクション 鳥類標本目録. 128pp. 島根県立博物館.
- 高野伸二. 1989. フィールドガイド日本の野鳥第2版. 342pp. 日本野鳥の会, 東京.
- 東條一史. 1987. 日本産アオサギ亜科 (*Ardeinae*) 6種の採餌生態の比較研究. 東京農工大学修士論文. 100pp.
- 山本雅彦. 1984. シロチドリの採食行動. 特に採食様式の2型について (小櫃川河口). 昭和59年度東邦大特研文集. 26pp.
- 吉村光敏. 1982. 中島村と久津間村瓜倉村との漁小屋争い裁許場 (元禄14年 1701年). 金田のむかし: 27-36.
- 吉村光敏. 1983. 近世の村絵図を過去の景観復元図に変換する方法について. 千葉県博物館協会研究紀要14:38-53.
- 吉安京子. 1976. シロチドリ (*Charadrius alexandrinus*) の干潟における採餌形態 (小櫃川・前浜干潟). 東邦大特研文集 II . 39pp.

Bird List for the Obitsu River Estuary, Central Honshu

Yoshitaka Minowa¹, Kazuyuki Kuwabara² and Mitsuru Tamura³

The Obitsu River is located in Kisarazu City, along the eastern shore of Tokyo Bay. The river empties into the bay at the western edge of the Banzu Shoals, and forms a rich coastal wetland ecosystem consisting of mud flats, tidal creeks and salt marsh, surrounded by reed beds and black pine woodlands. The low-lying land inside the levee is planted in irrigated rice paddy. The Obitsu River Estuary is the only area in Tokyo Bay where the original coastal wetland ecosystem is still intact, and as such the local avifauna is considered representative of the Tokyo Bay coast. Unfortunately, the Tokyo Bay Bridge has been constructed nearby, which is effecting the avifauna. Thorough research is thus a pressing need.

A total of 213 species were recorded at the estuary between 1974 and 1994. Many of these are species that prefer waterside habitats, and numbers of individuals are quite high. Numbers of shorebirds, ducks, gulls and terns are especially high, as are Japanese Reed Bunting, Reed Bunting and Fan-tailed Warbler that inhabit the surrounding reedbeds.

Research to date has identified 65 species of shorebird. Dunlin, Gray-tailed Tattler and Kentish Plover are most numerous, but numbers of these species have been declining since the 1970s. The total number of ducks and geese identified is 22 species, with Widgeon, Pintail, Falcated Teal and Greater Scaup dominant. The number of individuals for these species, however, fluctuates widely, especially during the hunting season. Terns and gulls total 14 species, with

large flocks of Common Tern and Little Tern observed during the spring and autumn migration periods. A flock of 12,000 Little Tern was recorded on 6 August 1995.

The results of bird surveys show that the Obitsu River Estuary is a vital habitat for protecting the avifauna of the Tokyo Bay area.

KEY WORD: shorebirds, avifauna, salty marsh, tidal flat, Tokyo bay.

1. Japanese Society for Preservation of Birds, 11th building, 2-5-5, Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, 160, Japan.
2. Natural History Museum and Institute, Chiba, 955-2, Aoba-cho, Chuou-ku Chiba, 260, Japan.
3. 1-9-11, Hukuoudai, Sodegaura, 229-02, Japan.